農業の新しい技術

No. 80(平成３年３月)
分類コード　02－04
熊本県農政部

「高原地域における被覆資材利用９月獲りレタスの栽培技術」

農業研究センター　高原農業研究所

研究のねらい

西南暖地における夏秋野菜の生産は、梅雨期の多雨、その後の高温、乾燥、強風及び強光などの気象災害を受けやすく、生産は不安定である。特に、レタスは、軟腐病や異常結球の発生が多く、九州地域内の自給率は最も低い品目のひとつである。

そこで、新しい被覆資材を利用し、有効な栽培法を検討した。

研究の成果

１．播種 7 月 18 日、収穫 9 月 14 日の作型ではダイオミラー R4000 をトンネル被覆（下 30cm 浮きがけ）することで、上物収量は無被覆の露地に比べ、45 ～ 50 %の増収効果が認められ、また、上物率も 100 %で、収量、品質ともに優れた。その被覆時期は定植直後または結球始めからが有効である。

２．無被覆による露地栽培においては、球の肥大は優れるが、強光による結球上位葉の葉焼、軟腐病及び分球の発生が多く、品質は著しく低下する。また、心部長も長く、抽台の恐れがある。

３．レタスの生育は高温で生育障害を起こすが、ダイオミラー R4000 のトンネル内気温は、無被覆の露地に比べて 2 ～ 3 ℃程度低くなり、降温効果がある。

４．適用範囲　標高 500m 以上の高原地域

普及上の留意点

標高 500 ～ 600m 程度の高原地域では、8 月上旬～ 9 月上旬収穫の栽培は避けた方がよい。

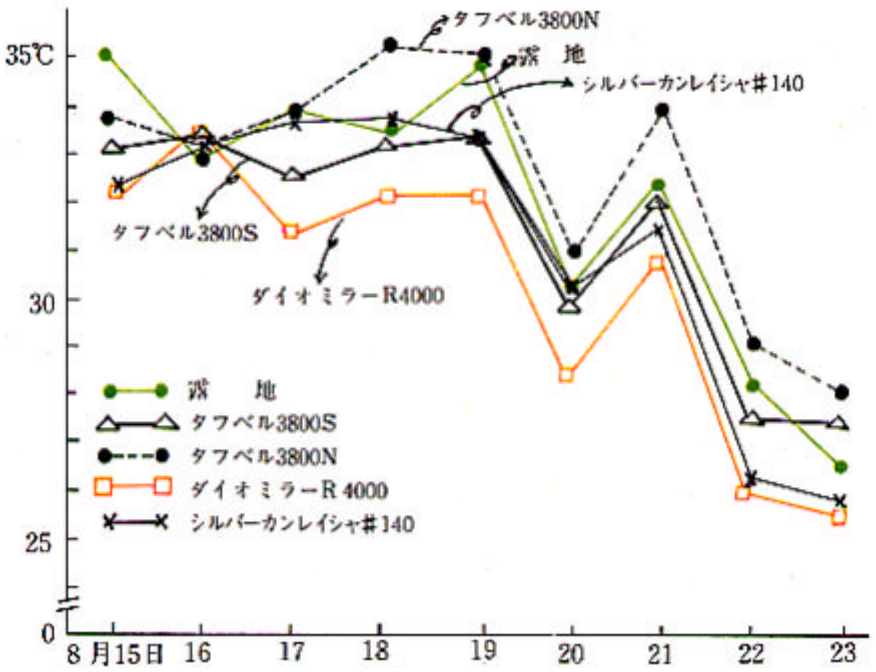

図１　トンネル内の最高気温

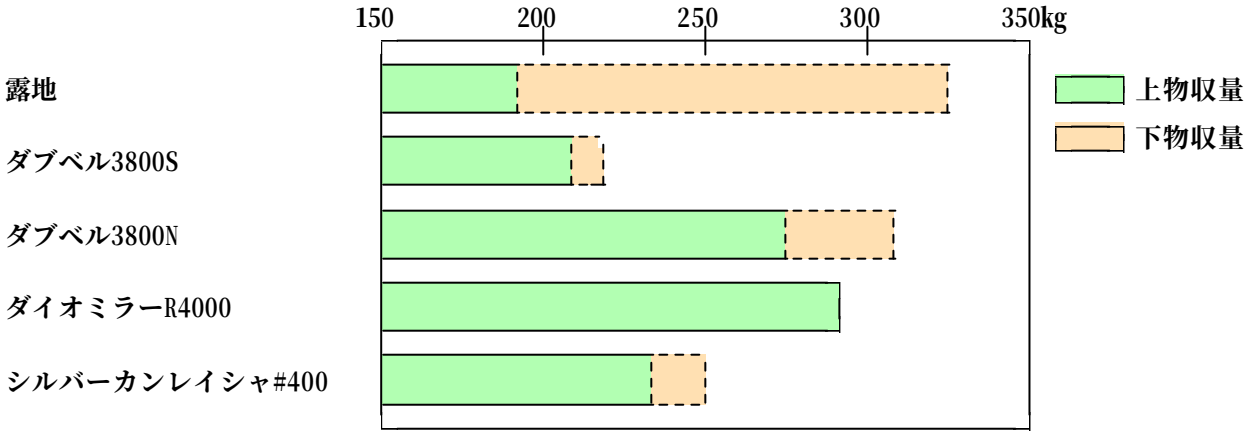

図２　１ａ当たりの上物収量

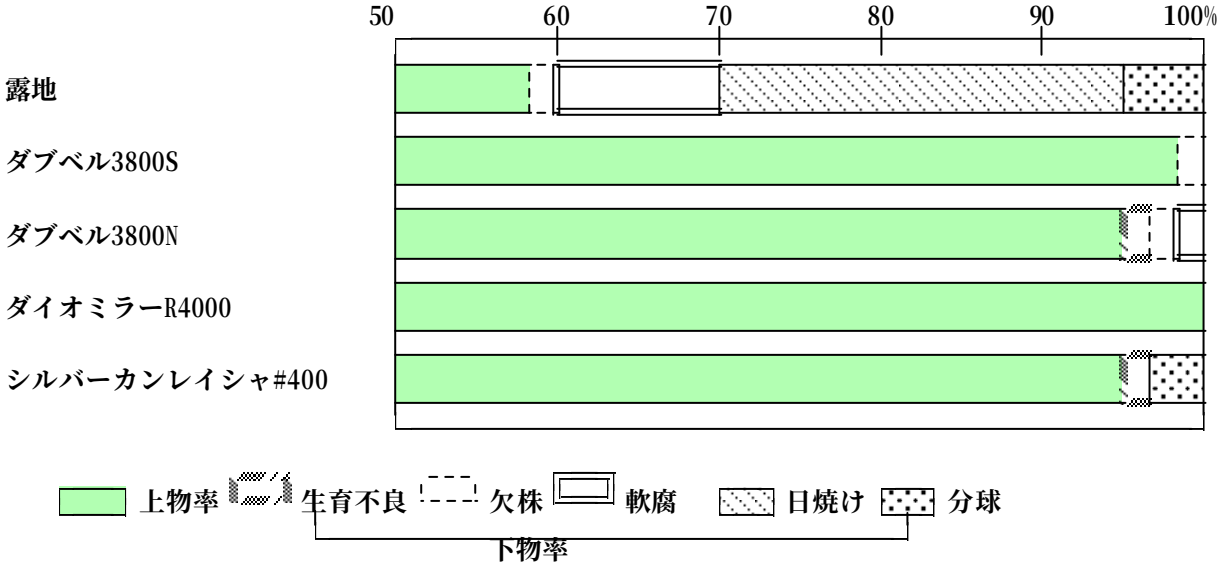

図３　上物率